

AI翻訳の活用について①

【平成31年度における検証結果】

- ・ 文法上の誤りは基本的にはないが、日本語の構造が複雑な場合、不正確な訳となることがある。

【令和3年度における検証結果】

- ・ 平成31年度に比して文法の誤りや不正確な訳が減少、AI翻訳エンジンの性能が上がり、翻訳の質が飛躍的に向上。
- ・ 一方、①日本語と英語の構造の違いから生じる不適切な主語の補いや、②訳語の不統一、「法令用語日英標準対訳辞書」・「法令翻訳の手引き」への準拠が不十分といった課題あり。

<課題①> 不適切な主語の補い方

- ・ 日本語では、主節・条件節で主語が同じ場合、一方の主語を省略することがあるところ、英語では、英文として成立させるため、主語を補足する必要があり、その場合に、前後の文脈の関係で不適切な主語が補われることがある。

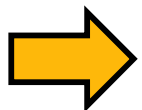
→ AIの学習強化による対応を検討

<課題②> 訳語の不統一、「法令翻訳の手引き」等への準拠

- ・ 同じ法令内で使用されている同じ語に、別の訳語が用いられることがある。
- ・ AIの学習のみでは、「法令用語日英標準対訳辞書」・「法令翻訳の手引き」に完全に準拠させることは困難。

→ アプリケーションを用いて適切な訳語に一律置換することを検討

※ ただし、一律置換になじまないもの（例えば、動詞、助動詞等）もあるため、人間によるチェックが不可欠。



令和4年度に上記課題①及び課題②の解消に向けた調査研究を実施

AI翻訳の活用について②

【令和4年度における調査研究内容の要旨】

<課題①>不適切な主語の補い：AIの学習強化

→ 不適切な主語の湧き出しがなくなり、翻訳品質が改善

<課題②>訳語の不統一、「法令翻訳の手引き」等への準拠：アプリケーションによる処理

→ 「法令用語日英標準対訳辞書」や「法令翻訳の手引き」に準拠した訳となり、翻訳品質が改善

【調査研究結果】

- ・ 課題に改善が見られ、翻訳結果が改善されることを確認
- ・ 他方で、大文字/小文字、単数形/複数形、文脈に応じた訳語の選定等は、機械的に判断することは難しく、人による確認・修正（品質検査）は継続する必要
- ・ AI翻訳を活用し、品質検査の在り方を見直すことで、英訳法令の原案作成期間及び公開までの期間短縮に繋がると評価

 調査研究の結果を踏まえ、令和5年度からAI翻訳システムの開発に着手